

気仙沼市の復旧・復興状況（平成25年度まで）に係る講評について

気仙沼市は、平成23年10月に「気仙沼市震災復興計画」を策定し、これまで「復興の基本理念」に沿って「復興の目標」を実現するため、復旧・復興に取り組んできた。震災後3年が経過したわけであるが、ここに、これまでの復興計画の進捗と気仙沼市の復旧・復興の状況について所見を述べることにする。

1 気仙沼の将来像の共有を

震災からの復興まちづくりは市民一丸となって進めることが極めて重要であり、このためには「復興の先にどのような気仙沼を創ろうとしているのか」といった目指すべき将来像（絵姿・目標など）を、行政内各部署はもとより、産業界、地域、市民間で共有し、共通の目標を意識して各々の取組を進めることが大切である。

このことから、市の将来像や市長の未来観を折に触れて情報発信し、目標の共有化を図りたい。

震災復興計画進捗の自己評価においては、「計画どおり」の評価が多く見られるが、個別事業を進めることにより達成すべき目標・効果を明確に持ち、このことの達成度・貢献度についても検証されたい。

また、常に生活者の視点を重視し、変化する地域課題を迅速に捉え、課題解決に際しては部署間連携、事業間連携を十分に図りたい。

2 事業のスピードアップを

復興事業は、全体的には確実にその進捗が見られるところではあるが、市民や産業界から見れば、震災後3年経っても未だ先が見えないという方が大勢いることも事実である。

住まいの再建や産業再生・雇用創出の課題は優先的に取り組んできた事項ではあるが、市民が一番に願っている住まいの再建については、その事業の完成は一部に留まっている。常に事業の進捗を確認しながら、より効率的に進める方策を講じ、復興事業のスピードアップに取り組まれない。

3 市民が求める情報提供を

震災から時間が経つにつれ、高まる市民の期待と復興事業の進捗とのギャップは大きくなっていると感じる。また、被害程度の小さい他自治体の事業進捗が報道されるにつれ、その差は増幅される。

ついては、事業計画の広報は当然のこととして、事業の進捗状況についても、工事見学台の設置や広報誌への工事風景の掲載など、市民の目に触れるよう工夫を図りたい。

また、行政が伝えたい情報と市民が求めている情報に隔たりが見られることから、単一の事業に係る説明会であっても、その時期・その場所における旬な話題についても、適時・適切な情報提供を行われたい。

4 「チーム気仙沼」の総力を結集して復興を

復興を進めることは、自分たちのまちの復活と同時に子ども達が暮らす未来のまちを創ることである。

市民一人ひとりが抱えているまちへの思いや未来へ伝えたいメッセージを、最大限まちづくりに反映できるよう、広く意見を聞き、議論を交わしながら、復興に励まれたい。

また、この機会に絆ができた市外の企業、団体、研究機関等の力も借り、「チーム気仙沼」として総力を結集し、復興と未来に向けたまちづくりに専心されたい。

最後に、この3年間で市民にとって長かったのか、短かったのかは市民それぞれであり、復興事業の進め方や情報共有、合意形成のあり方の評価も様々であろう。

ここに至り、これまでの3年間で内省し、この先も続く復興事業に活かし、将来に渡り気仙沼に関わりを持つ皆が「海と生きる 気仙沼」に誇りを持てるよう、心を一つにし、まちづくりに邁進されたい。

平成26年7月7日

気仙沼市震災復興推進フォーラム

代表 大滝 精一